

01 なくしましょう コロナ差別

(新型コロナウイルス感染症)

5 (ナレーター) 皆さん、いかがお過ごしですか。福岡市がお送りする「こころのオルゴール」の時間です。今日は私、岡澤アキラがお届けします。

10 「コロナがうつる」「うちの子と遊ばないで」 2020年春、新型コロナウイルスの感染が拡大する中で、感染者や医療・福祉従事者、その家族などに対して、誹謗中傷やいじめ、差別的対応など心ない言動が広がりました。福岡県内の病院で感染者のケアにあたる救急担当の看護師も、緊急事態宣言中こんな体験をしたそうです。

15 【看護師役】私が勤める病院ではクラスターが発生したため、「近所に住む私たちにまで感染が広がったらどうしてくれるの？」

「クラスターなんて、一体どんな対策をしていたんだ！」

と苦情の電話が鳴りやまず、多数のスタッフが電話口で謝り続けました。

20 また、同僚の多くは、同じ病院で働いているというだけで、

保育園で子どもを預かってもらえなかったり、かかりつけの病院に受診を断られたりしたようです。中には、同居していない家族までも、会社から出勤を自粛するよう言われた人も

いました。

コロナの感染が広がって不安なのは、私たちも同じです。感染リスクの高い仕事だからと、子どものことを考えて1カ月も自宅に帰らず、車や職員寮に泊まり込んでいた看護師もいます。

そんな状況でも私たちは覚悟を持って、コロナが早く終息してほしい、患者を一人でも多く救いたい、という一心で働いているのです。なのに、なぜこんな差別を受けるのか：とひどく傷ついたし、悲しみやつらさ、腹立たしさや悔しさなど、さまざまな感情が今も渦巻いています。

(ナレーター) こうした不当な差別の背景には、未知のウイルスへの強い不安や恐れがあります。その不安や恐れにふりまわされたり、噂やデマにあおられたりして、冷静な判断ができなくなり、理不尽な人権侵害が引き起こされます。その結果、人と人との信頼関係や社会のつながりまで壊されてしまうのです。

そうならないためにも一人一人が、感染が拡大しないように頑張っている姿をねぎらい、敬意をはらうことが大切です。